



18日(水) 誕生日会  
19日(木) 避難訓練  
25日(水) クリスマス会

# 園だより(2月号)

2013.12.2  
矢向つばめ保育園

\* 12月うまれのおともだち  
7日 さめじま なつめ ちゃん 3歳  
12日 うんの あおい くん 2歳  
21日 かない ひなた ちゃん 2歳

さて、今年もあと1ヶ月…。気が付けばカレンダーも残り1枚となり、少し寂しい気持ちになってしまいます。

新年度がスタートして4月からひとまわりも、ふたまわりも大きく成長した子ども達!! 泣き声ばかりだったお部屋からは、楽しそうな笑い声がたくさん聞こえてきます。

今のこのクラスで過ごすのも残り3ヶ月。子ども達ひとりひとりの思いに耳をかたむけながら職員一同子ども達と、楽しい時間を過ごしていけたらと思います。

感染症が流行しやすい時期です。手洗いやうがい、規則正しい生活を心がけ、元気に過ごしたいですね。

21日(火) 避難訓練  
23日(木) 誕生日会



❗冬に流行しやすい病気❗

・インフルエンザ  
かぜと症状が似ていますが、かぜよりも症状が強くなるのが特徴です。

・ノロウイルス、ロタウイルス  
ロタウイルスは特に0~2歳の乳児に多くみられ、白っぽい水様便がでます。10~20%にも嘔吐や下痢の症状がみられます。どちらも感染力が強いとわれています。

☆ご家庭で気づいたことがございましたら、職員までお伝え下さい。☆



お誕生日  
おめでとう!!

**※朝の合同保育※** 朝は3クラス合同で保育を行っています。登園時は大人同様眠くて気分があがらなかつたりする子どもも多く、特に連休明けは疲れがたまっている子どもも多く見られます。しかし、担任の先生や、朝の先生に「キョウウ」とうけとめともうことごと子ども達も安心して自分の好きな遊びをみつけられます。  
朝のうけいれでは「うけとめこと」を大切にしています!!

😊 今月号では…朝の合同保育 夕方の時間外保育の様子をお届けします 😊



お兄さんお姉さんを見て、マネっこもします!!



玩具を共有しあって、もくもくと取り組んでいます。



テーブルとおままごとがあれば、たちまちパーティーのはいまりはいまり♪



普段使わない玩具に夢中♪



先生達のおひざはいつも大人気!! 安心するスペース。



この遊びは大人気!! 子ども達も自然と集まってくる。



おはよう!! 同じクラスのお友達がおは、とってあげたい。



マネっこ! マネっこ! 異年齢の間わりもよくみられるようになってきました♡



1人の集中スペースも! じっくり取り組んでいます。



コーナーを設置して、自分の好きな遊びを見つけます。

スキンシップも大好き♡

**※夕方の時間外保育※** 基本的に0~1歳と2歳に分けての保育を行っています。保育時間が長くなる夕方は疲れもみられ自分の「やりたい!」と思うことが思うよりできないと、トラブルの原因にもなってしまいます。その為「やりたい!」を大切に、少人数で十分に遊ぶスペースを提供し、コーナーに分けて遊びを行っています。  
子ども達が減っていくなかで、安心して好きなことをしながらお迎えを待てるように心がけています。



## 【コミュニケーションはいつから、今からでしょ！】

今回も長いですが、じっくりと読んでいただきたい問題です。

生まれたての赤ちゃんに2人の女性が声をかけます。

一人はお母さん、もう一人は違う人。

まだ目もしっかり見えない子どもが反応するのは、お母さんの方なのです。

誰がお母さんで、だれがお父さんなのかもわからない頃。

おっぱい、ミルクをくれる人であれば、空腹を満たせば泣き止む頃、なぜお母さんが分かるのか。

それは母の胎内で生を受け10か月もの間、正真正銘一心同体であった時に常に聞いていた声を覚えているからだと思います。

生まれてからも、お父さんに抱かれてもダメで、お母さんが抱くとびたりと泣きやむのはなぜなのか。

何時もお母さんの肌に触れながらしっかりと抱かれ乳を飲んでいる、その時の感触、匂いは子どもにとって最高の安らぎの場なのです。子どもの本能でここが一番安全な場所である、この人は自分のことを守ってくれる人であると感じているのです。

このように何もできない頃の赤ちゃんは肌に触れる感触で、体に伝わる鼓動で、匂いで大切な人を識別ししているのです。

生後2、3か月の頃の赤ちゃんは20センチくらいの距離ならはっきりと見えるようになると言われています。おっぱいを飲んでいるときにお母さんの顔を見上げた距離がちょうどそのくらいではないでしょうか。

その時に、しっかりと顔を見て、目を合わせ、声をかけ、笑いかけてあげる。何を言われているかわからないころですが、声掛けに笑い返してくるようになりますね。

表情が出てきて、その声掛けに反応するように自分でも声を出し始めます。

コミュニケーションの始まりです。

コミュニケーションの手段は肌に触れること、声をけること聞くこと、見つめ合うこと、まだ自分の意思を人に伝えられない頃は目、耳、口、肌、五感を使って受け止めて、そして赤ちゃんなりに発信しているのです。

今、問題になり始めているのが、この対話のできない頃のコミュニケーションが不足してきているというのです。

テレビを見ながらの授乳、携帯をいじりながらの授乳、皆さんはどうでしょうか？

抱いたりおぶったり、バギーに乗せているときに声をかけてあげていますか？

言うことを聞かなかったときに無視をしていませんか？

今は、便利なものがたくさんできています。先日は小児医師会からスマホで子守をさせないでと言う警鐘が出されました。

便利なもので大事なものを奪うものはたくさんあります。お母さんの語りかけと笑顔に勝るものはありません。

授乳しているときに何を話しかけて良いのかわからないという話を聞いたこともあります。何も心配いらぬのですよ、お天気の話だって、今日の夕飯何にしようかでも、何でも話しかけて良いんです。あ〜、お〜と赤ちゃんの喃語の真似をするのだっていいんです。おっぱいを飲みながら、バギーに乗りながら、子どもはしっかりと聞いてくれますよ、お母さんを体いっぱい受け止めてようとしています。

目を合わせようとしない子どもが増えているということも気になります。日常のお世話だけでなく、意思疎通のできるコミュニケーションをたっぷり掛けてあげることが大事だと思います。

卒乳・赤ちゃんから卒業の頃、今まで、お母さんにくっついて肌に触れることで最高の安心を得ていた子ども達はその安心を奪われることに抵抗を示します。泣いて泣いて、おっぱいがほしいよと。この時に必要なのがおっぱい以外での関わり方でコミュニケーションを取ながら、大丈夫だという安心感を与えてあげることです。おしゃぶりやタオルを与えてしまえば、それを取るときにまた、同じことが言えます。これを与えていればおとなしい、安心するからと言う場合、それ以外でのコミュニケーションが足りているのかちょっと考えてみる必要があるかもしれません。お母さんの代替であるということであれば、お母さんのいる時には必要なくなるはずですが、お母さんがいてもそれが必要であるならば、もっともっと関わり合うことをしてあげてほしい。



今、社会現象になっている子どもの問題の多くはコミュニケーションが取れないということから出発しています。自分の思いを伝える、人の思いを受け止める、思いを共有する、違う立場、互いを理解し合う、これがうまくできないと社会に出ていくことが難しくなります。

一番安心できる人に自分の感情を出せたり、沈めてもらったりしながら人との関わり方を学びます。何もわからないではなく、相手をしてあげることによって分かるようになっていくのです。わかってからコミュニケーションをとっていくのでは遅すぎるということですが、しかし、もしかしたら足りていないかもと気づいた時からでも取り戻すことはできます。求めている子には、その思いはすぐに伝わるはずですから。

この矢向江ヶ崎地域には子どものことを考える会と言うのがあります。小学校、中学校の校長先生、生徒指導部長、PTA会長、保護司、補導員主任児童委員、保育園園長、地域ケアプラザの方々、たくさんの子どもの関わる仕事についている人と保護者によって構成されています。

まだ発足されてから2年目と言うことは、若い子育て世代の方がたくさん引っ越ししてこられるようになり、町を挙げて子育てを応援しようという体制が出来上がってきたものと思います。保育園からは認可園3、と横浜保育室1の4つの園が参加しています。

今月の園長コラムのテーマがコミュニケーションと言うことですから、そのことの極めつけは、今、どこでも虐待が問題になっていますが、親からの虐待より、子どもからの暴力の訴え、家庭内暴力の方が多という報告がありました。もちろん数は少ないですが、親が子どもを理解する前に言葉や態度、暴力で制すれば、いつか逆転するという話です。

自分の思いを訴える、その力は自分を受け止めてもらうことから作られてきます。どんな思いであろうと表現できないでいれば、心に押し込むしかありません。聞いてもらえるということが大事なのです。

子は成長します。訴える方法を相手の気持ちを押し込めるということによって作られれば自分の思いを出したいときには、されてきたことと同じことをするでしょう。

この時、親を反面教師としてそんな風に絶対ならないぞと育った子もいるかもしれませんが、その場合の親子関係はどうなっているのか、どちらの場合もこのびのびと自分を大切に育ててもらえなかったということに違いはないでしょう。

いやいや期、思春期の反抗期、子育てには山がいくつもありますが、あるお父さんが言っていました。

反抗期真っ只中、くそじじい、うるせんだよと言われながらも。我が子にも2、3歳の頃があった。本当に可愛かった。その時のかわいらしさ、癒されてきたこと、楽しかったこと、この時の思いがあるからこそ、今、子育てに頑張っていると。

私もこんな言葉を聞いたことがあります。

子どもは3歳までに一生分の喜びを親にくれるそうです。だから、そのあとどんなに大変でも親として頑張れるのだと。

大人になるまでにはいろいろな試練がある。その中で、葛藤をしながら自分の道を見つけていく子ども達、その時しっかりと支えてくださいね、たとえどんなに反抗したとしても見放さずに見守っててくださいね、と言うことをまだ言葉にならないうちから愛する喜びを私たちに教えてくれているのだと思います。

3歳神話と言う言葉に今、色々な論議があるようですが、神話であろうとなかろうと、この3年間の間にはたくさん大切なことが築かれる時期であり、これから先の力となることがたくさん詰まっているのは間違いありません。この3年間の一番目が離せない時期であり手がかかる時期であり、わけのわからない時期でもあり、親にとって大変な時期でもあります。しかし本当に大変なのは、手を掛けられなくなってからの時期なのです。子を思う気持ち、黙ってみているしかない時期、心配しながら見守る気持ち、その時は、子どもを信じることしかできないのです。

皆さんもそんな思いをご両親にかけてもらいながら育ってきたはずですね。子を持って初めて知る親の思い、これを感じていらっしゃる方も多いでしょう。

今の時期、何が一番大切なのか、選択しなければならないこともあるでしょう。自分が我慢しなくてはならないこともたくさんあるでしょう。長い人生の中で振り返ると、それはほんのわずかな時間でしかないのですが、それが分かるのは過ぎ去った日々を思い返す頃なのかも知れません。だからこそ今、伝えたい、大事なことなのです。

愛すべき大事な目の前の子ども達の代弁者となって伝えたいことです。

